

第5回高砂市文化振興審議会議事録

出席者 田端会長、北野副会長、三井委員、岩見委員、渡邊委員、唐津委員、高橋委員、前田委員、松本委員

欠席者 森本委員

事務局 副市長（健康文化部）橋本部長、猪子室長、東野課長、福原主幹、前川係長（教育推進室）泉田課長 （学校教育室）玉野室長

1. 開会

【司会】 定刻になりましたので、ただ今より第5回高砂市文化振興審議会を開催いたします。

開催に先立ちまして、当審議会の公開についてですが、「高砂市文化振興審議会の運営に関する規程」に基づき、公開とさせていただいておりますが、本日傍聴希望者はおられません。

委員の皆様におかれましては、お忙しい中ご出席いただきありがとうございます。

※ 配布資料の確認

2. あいさつ

【司会】 では、開催にあたりまして、副市長よりご挨拶申し上げます。

（副市長あいさつ）

【司会】 引き続き、会長よりご挨拶お願いいたします。

（会長あいさつ）

【司会】 本日の会議は、出席9名、欠席1名により、審議会規則第5条第2項の規定により、過半数が出席されているため会議が成立していることを報告いたします。

では、今後の議事進行は、会長にお願いいたします。

3. 議題

(1) 高砂市文化振興基本方針（素案）について

【議長】 それでは議事を進めさせていただきます。皆様のご熱心なご検討を得まして、基本方針の素案ができあがっております。これについて今日最終的に補足点、あるいはこういう表現の方が分かりやすいのではないかと、そういったことも含めてご議論いただきたいと思います。それではまず文化振興基本方針（素案）につきまして事務局の方からご説明いただきます。みなさんには掻い摘んだ説明になると思いますが、不明な点はまたご質問等いただきますので、その際によりしくお願いいたします。では説明をお願いいたします。

【事務局】

（説明）

【議長】 ありがとうございます。説明いただきましたように文化振興基本方針を今たてているわけですが、これは実をいうと委員から、高砂というところはこれまで文化に関わる色々な事をやってきたんだ。本来そういうところが基盤にあって今の条例ができて、そして基本方針ができてはいるはずだ。そういうものをきちんとこの方針にも反映し、明らかにしておかなければいけないだろう、そうでないとこの方針だけが浮いてしまうのではないかと、こういうご懸念をいただきまして、先ほど事務局の方から説明のありましたこれまでの経緯を載せていただくということで、文章をつけさせていただいたということでございます。これを踏まえてその次の3ページにございますように条例制定の経緯というところに至るということでございます。条例制定の経緯にあたって単にこれが総合計画に基づくというだけでなく、過去からの遺産を受け継ぎながら新しい方針を出していくというところを明確にしたということでございます。

【委員】 審議会だけでなく後に残る文書、書類、それには過去があって現在があって未来があるわけです。現在があって未来があるというだけではどんな書類でもおかしいです。特にこの文化を語る場合などは歴史、それこそ文化の歴史が書かれて、そして現在があって、そして未来がある。そういうことが想像されるわけです。いろんなご意見があり、その時に私も説明をしたかったけれど、みなさん方のご意見が出ないと思って2回の会合では黙っていました。でも、できあがったものを見たら全く高砂の20年間というものが高砂文化不毛の地のような感じを受けておりましたので、私はこれはだめですよ。この20年間というものは高砂にはこれだけの大きな文化の歴史があったということ、資料に系列別、年代別書きまして、それを付け加えてほしいということをお願いしたわけです。「はじめに」というところにもそれを含めるべきではない

かということをお願い、先生に手を入れて頂いてこれができました。そういうことで結局物事には過去があって、現在があって、未来があるという前提のもとで成り立っていると思いますので、今日この文章が皆様に沿うように変えていただけたらいいと思います。先生の御尽力のおかげです。

【議長】 ありがとうございます。こういうご指摘をいただいたところも踏まえて「はじめに」を付けさせていただいたということでございます。ほかの部分につきましてはパブリックコメントを取る際にお配りしたものと基本的には変わっておりませんが、字句の訂正等、またお気づきの点多々あるかと思っております。これは市民一人ひとりに示すものなので、例えば分かりにくい表現とかこうゆうふうにしたほうが誤解が少ないのではないかと、またこういったところを注意したほうがいいのではないかなど、色々お有りだと思います。この機会なのでどんどん出していただきたいと思います。

【委員】 私が読んで理解しにくい、もう少しやわらかい言葉がいいのではないかと、いうところが、基本目標3の文化を創造する魅力づくりの10ページの1行目ですけれども、変えないといけないということはないのですが『謡曲「高砂」を大切にすることを背景に』という言葉がどういう意味なのだろうか。『大切にするという文化的なところを背景に』という言葉の方が分かりやすいのではないかと思います。

【議長】 『文化的なところを背景に』ということですね。つまり、大切にするというのは心の問題ですから、その心がけがといますか、心をしっかり持つことによって、そういうところがある地域ですよということを強調したいというニュアンスでございます。

【委員】 『伝統文化から現在文化まで、全国や世界の人々の興味、関心を引き付ける』を前にもってきて、『謡曲「高砂」を大切にすることを背景に』を後に付けるとまだ分かりやすいと思います。

【議長】 “高砂の魅力”の前に、『謡曲「高砂」を大切にする』を入れるわけですね。

【委員】 情報が逆なのでそのあたりを整理すれば分かりやすいと思います。

【議長】 趣旨とすれば、『謡曲「高砂」を大切にするという文化的なところを背景に』という部分は分かったのですが、先ほど委員から、もっとシンプルにすれば、いわば伝統文化から現在文化までみなさんの心を引き付ける、それは高砂の謡曲

「高砂」を大切とする高砂の魅力なわけですが、そういうふうに書いた方がはっきりするのではないかというご意見ですが、いかがでしょうか。

【委員】 あまりにも謡曲「高砂」を背負い過ぎると、すべて高砂が謡曲「高砂」だけみたいな感じにこの文章を見ると感じられているのではないかと思いますけど。あくまでも伝統文化から現代文化まで、ということが趣旨なので、それを前に出して、高砂は謡曲「高砂」を大切にとするとしたらいいのでは。少し言葉の流れがおかしいですね。

【議長】 そういう魅力のある地域ということを強調すると。いかがでしょうか。組み替えるということでもよろしいでしょうか。

【委員】 はい。言葉がちょっと分かりにくかったですね。

【議長】 ありがとうございます。それでは言葉の方を変えさせていただきますのでよろしくをお願いします。

【委員】 それともう1点、19ページ、基本施策の5の上から3行目、「高砂が文化を大切にすることを知り、外部からも高砂というふるさとを愛する人が集い」と書いていますが、高砂は文化を大切にしているからそういうまちをいいなということかと思うのですが、外部からも高砂というふるさとを愛する人が集い、とはどういうことか。高砂というふるすとは、外部の人はふるさとではないと思い、ここを今までの文章を使いながら作ったのが「高砂が文化を大切にし、ふるさとを愛する人が集うまちであることを知り、外部からも豊かな文化を持った高砂を愛する人が集うことで、地域の活性化に寄与する。」というのはどうでしょうか。ちょっと長いんですけど。

【委員】 それいいですね。

【議長】 内容的にはだいたい一致しています。意図はよく分かりますので、書き変えていこうと思います。ありがとうございます。読んでひっかかっているところ、こういうふうにしたほうが分かりやすいというところ、お気づきの点があれば言ってください。あるいはまだ言い足りないことでも結構ですが、どうでしょうか。

【委員】 18ページ基本施策4【施策の方向2】他市との交流の〈具体的な施策例〉を見ると、外国との事ばかりが書いてある。

【議長】 一応5番に国内友好都市との交流とあるのですが、もうちょっと他にありませんか。

【委員】 1と2も重複するし、2と3も重複するし、4と5は違いますが、1、2、3はひとつにまとめた方がいいと思います。

【議長】 1の「ラトローブ市との姉妹都市交流の推進」と2の「外国人との交流事業の促進」は確かによく似ていて1本になりますね。3はやはり外国語を学ぶ教室で少し違います。そうすると国内に目を付けて他にもう少し何かないかということになりますけど、何かないでしょうか。

【委員】 何か外国人との交流をむりやり掘り起こしたみたいな感じがするからね。共通している部分をさらりと書いた方がいいのではないですか。

【委員】 1番はラトローブ市との、都市の交流、姉妹都市の交流のことで、2番はこのあたりに住んでいる外国人、人との交流を言っています。

【委員】 結局外国人との交流事業になると、ここに住んでいても外国に住んでいても一緒です。

【議長】 「ラトローブ市との姉妹都市の推進」と「外国人との交流事業の推進」、3番の「外国語を学ぶ教室、講座の開催」なども通して外国人と交流する。2番を分けて、国際的な部分と国内での外国人との交流とに分けて考える。

【委員】 だからあえて3番の「外国語を学ぶ教室、講座の開催」と部分的なことを書かずに、外国人との交流事業の促進でいいわけですよ。そうすると全部包含できるわけです。

【議長】 2番と3番が共通していると。1番と2番は担い手が共通していたので統一しようと思ったのですが、委員の意見を聞くと必ずしもそうではないので、2番と3番を統一するような形を考えます。

【委員】 それともう1点。〈具体的な施策例〉は前回の説明では、今現在高砂市役所として行っている施策を載せているということで、丸印はこれから実施予定ということでしたが、こちらをまとめるということによろしいのですか？

【議長】 施策と書いていますが、施策のレベルは事業が混在したものですから、まとめたところで高砂市的には問題は生じないと思います。事業レベルを一緒にす

ると困ることもありますが、施策レベルであればこういう事業をいくつか重ねて、こういう方針こういう施策という形になるので問題ないです。

【委員】 そうすると2番と3番を統一するのであれば、担い手の部分で、2番は企業から行政まで5つで、3番は3つですね。そのあたりの関係はどうなのかという問題が出てきます。

【議長】 先ほど2番と3番をひとつにすれば担い手が違ってくる。そこは気になるのが、学校ではない、ということが行政的にはあって外されていると思う。これは意向変えしたときにはもちろん入っても問題ないと思います。先ほど言ったように事業レベルではない話ですから。他はどうですか、お気づきの点がありますか。当然企業の方がむしろ外国語講座とかやっていて、一所懸命やっていたりするケースがありますね。むしろ企業が入っていてもよいと思いますね。

【委員】 2番と3番は一緒にするべきだと思います。

【議長】 要するに2番は交流ということですね。あとお気づきの点ありましたらどうぞ。

【委員】 一般的に、他市との交流は、もう少し身近なものとして一般市民としては受け取ります。急に外国人と交流と言われてもなかなか距離を感じます。例えば姫路市、加古川市など近隣の市とか、県全体の動きとか。一般の市民レベルから言えば離れていると思います。

【委員】 この表自体が外国にこだわりすぎている。表の一番上に今言われたような文言を入れるといい。

【議長】 例えばたつの市は赤とんぼを使用した他市との合唱コンクールをしているので、こういった身近なものがあればと思います。

【議長】 具体的なところが書きにくいのであれば、様々な文化に関する全国組織や全県組織を通しての交流の促進としたらいいのではないかと思いますね。

【委員】 他市との交流で、外国は他市でもありますが、この中の外国人との交流という分では文化、異文化交流だから、他市との交流だけでは収まらないところではあります。

【議長】 外国人との交流と他市との交流はどう違うのかという議論です。それを考

えれば2番はほかのところに入れるといいかもしれませんね。おそらくこれはラトローブ市を中核に考えて、出されてそれを3つに分けているから、そこは整理した方がいい。むしろ実際今各団体が全県組織などに参加され、交流されていますから、そういうものを促進していく。

【委員】 行政の方としては、2番はラトローブ市以外滞在なさっている方々と具体的にどういう交流行事をイメージされているのですか。

【事務局】 2番の「外国人との交流事業の促進」は、国際交流で主にやっていることなのですが、市内在住や在勤の方々を集めてバーベキュー大会をしたり、そういう方達と話す機会を設けるために国際交流サロンを実際やっています。その部分が2番で、2番と3番を統合するという話もありましたが、3番の方はむしろ日本人の方が外国語を学ぶ講座をやっているとして、英語、中国語、韓国語などを今年からやろうとしているので、そういったところを含めて3番は書いています。

【議長】 都市ではないではないか、なぜここに入ってくるのか、ということになって、おそらくラトローブ市のことだろう。だから一本化したらどうかということですが。都市ではないではないかという点はいかがですか？

【事務局】 市の部分だけではなく、もちろんラトローブ市の方との交流も入っていて、ラトローブから来ていただいているALTの先生との交流会などもやっていて、それも含まれています。

【議長】 「他市」ですからね。中身をみると「特性を持つ都市との情報交換」ですから、ラトローブ市との姉妹都市交流の推進による外国人交流事業とかは整理しやすいですが、先ほどおっしゃっていた市内にいる外国人との交流、あるいは市内で外国人と外国語を学ぶ人々との交流は他市との交流とは少し違う。別のところに入れるか、あるいは国際交流で外すか、どちらかの方がいいように思いますが。

【委員】 他市との交流で、はじめが全体的に交流の文言ですから、もちろん国内外ですけど、近隣との交流の表を最初に外国人の表の前に別枠として作ればいい。

【議長】 「都市」というところに注目し、都市には外国と国内があるからもう少しきっちり書いたらいい。2、3、4番に関しては基本施策1の【施策の方向3】の中に「外国人との交流機会の充実」と書いてあるので、基本施策の1や基本施策の3くらいと一緒にしていくというのがひとつの方向だと思います。その代わりにもう少し国内の都市との交流を充実して書くというのはどうでし

ようか。

【委員】 施策の方向1と2の前に基本施策4に「文化交流の促進」とあります。文化交流を促進するために、まず1番は市の魅力をアピールするイベントを開催する、2つ目には異文化がぶつかることによって、素晴らしい文化がまた生まれてくるから、高砂ももっと他の文化を取り入れて、今の謡曲「高砂」などをもっと発展させていこうという意味合いなのかなと思います。だから1と2はそういう意味合いで考えると、他市との交流という言葉だけではおかしいと思います。異文化というか何かそういう言葉があれば、高砂市の魅力が1番であれば、それを取り入れる何か他との交流という意味で、他市だけではなく何かないかなと思います

【委員】 それは結局この表現が外国の例ばかりを書いているから、日本の国内のこと、近隣のことはいいのかとなるので、ここをもう一度整理し直したらいい。

【議長】 おっしゃるとおり近隣のことは書かなければならない。施策の方向の出し方が他市との交流になっているので、地域との交流にしなければならないと。

【委員】 地域というか、市の魅力とは市の中で今ある文化的遺産を、魅力的なこれなら高砂ゆかりの人物の記念事業をやっているとか、「高砂の核となるイベントの開催」で、高砂の中のことばかりで高砂の魅力をあげているが、ただこれだけでは発展していかないなので、いろんなところのいい文化とぶつかることによって、もっと良くなっていくというのが2だろう。

【議長】 その意図は分かるが、他市との交流施策になれば狭くなるので、この表現ももっと広くとれば、先ほど出ている外国人との交流も入ってくる。外国人以外の国内の地域や国内の人々との交流も入ってくる。そういうふう書き直したらどうかというご意見でしたよね。何かいい表現はありますか？他市だけでなくもっと広い表現ができれば。

【委員】 外国は異文化だと思うが、日本の国内、例えば加古川市となれば、異文化というのはちょっとひっかかるところがある。

【議長】 国内においても異なる地域、国外において異文化みたいなイメージでしょうね。

【委員】 国内外の文化の交流としたらどうですか。他市との交流という言葉にこだわるから、他市ではなく国内外という言葉に変えたらいいのではないですか。

【議長】 そういう形にしましょう。そして先ほどから出ている国内の近隣都市との交流をどうするかという問題ですね。

【委員】 それを外国の前に、いい文章で表現したらいいのではないですか。

【議長】 具体例があれば分かりやすいと思いますが何かありますか？

【委員】 県の方は東播磨・北播磨が最初嬉野に文化の拠点を作って、文化連盟がそこで創立したわけです。それが県民局単位でできてきて、協議会になって持ち回りで年1回勉強会をしています。だからこういう形で国内外の文化の交流と書かれたら、この下にそのことを書く。地域の文化を交流して伝承している、というようなことをまず最初に書いて、それから外国人のことを書かれたらいいと思います。まず自分の国の文化を大切にそれを先に書いてもらったらいいのではないですか。

【議長】 そういう例を施策の具体例に入れることと、先ほどおっしゃっていた例えば新しい文化を創造するためには、【施策の方向2】の説明のところですが、「市民が文化への理解や共感を深め、新たな文化を創造するために、国内外の異なった特性をもつ都市や人々との交流に努めます」と、ここに「人々」を入れればできます。もうひとつおっしゃった地域の文化伝承の活動をもちよるといふ言葉を入れることで、都市との交流だけでなく、人々や持っている文化との交流を深めるということを強調します。これでよいですか？

【高橋】 はい。

【委員】 できればその言葉の中に、伝承文化を大切にするや新しい文化、ということを入れていただいたら両立していいのではないかと思います。

【議長】 他に何かお気づきの点ありましたらどうぞ。

【委員】 この表の中は具体的な施策例であって、今言われました上の【施策の方向2】の他市との交流の文章の中で包含していれば、実際今までにやっていることなので、何も変えたり、まとめたりする必要はないのではないですか。

【議長】 今やっている例の中で、ある例が抜けているものがあつたので、それは付け加えるということです。それと私が思ったのは、都市という言葉だったので、2、3、4はおかしいかなと思ったので、先ほどのご説明とご指摘で、もう少

し幅広くとりまじょうと。そうすると外国ばかりでバランスの問題がある。元々やっている活動もあるのだからそのあたりも入れて充実させまじょうと。このあたり内容を充実させる形になります。

【委員】 今後取り組むべきことが今出た意見で、下の部分は現在行政がやっていることですね。

【議長】 行政だけでなくてもよい。中核になるのが行政かどうかということだと思います。行政が中核をなす施策がここに入っているべきなのか。例えば15ページの【施策の方向2】の8番ですが、「文化資源をめぐるまちなかでの自主的なワークショップ」となると行政が主役ではない。でもおそらく行政が支援をしないと、こういうものはできない。主役ではないが支援をしないとできないものはいっぱいある。先ほどの外国語を学ぶ教室の講座の開催は、行政が開催するわけではない。多分留学生パーティーをやるときには行政が場所を貸してあげまじょう、という施策だから、何も行政が主役ばかりの施策でなくともよいと思います。

【委員】 これは基本方針だから、あくまでも行政が先頭で旗をふれというわけではないですが、行政がバックアップしないと。

【委員】 施策の方向で書くのはいいと思うのですね。下の具体的な施策例と施策の方向の書き方をどうするか。

【委員】 新しい施策を確立するのだから、今までの地域文化や伝統文化というようなことも、これを前に書いてもらったらいい。

【議長】 施策例の中に何をいれるかという問題で、地方文化伝統協議会のような全県型の組織を通しての交流がある。多分こういう県の主催事業で行政が関わってないことはなくて、実はかかわっていると思うのですけども。

【委員】 地文伝の大会に、開催しなくても文化連盟の方がみなさん参加していただくということが、文化の活動のいわば芯です。その次に市の施策として文化連盟の秋の文化祭がある。そういうことをまとめて文言として書いてもらったらどうか。だからこの表を作るのなら日本自体のことを書かなければいけない。現在やっている高砂市や近隣のやっていることを書かなければならない。これを出したと自体後始末が難しい。

【議長】 表は出さないとどんなことか分かりにくいというところがあるので、表は

出させてもらって、表現の仕方をどうするかということと、ここに出す表の具体的な施策を委員が御懸念されたことですが、行政が全部主催になっているものではなくてもいいと思うので、行政が旗振り役になったり、バックアップするとか。文化連盟はまさに行政との密接なかかわりの中で活動しているので、それがかかわっている全国組織の抽出というのは、決しておかしい話ではないと思います。

【委員】 ここは整理してもらい、他市との交流で突然こういうものが出てきているので、ここは変えてもらい、足元の文化の活動を明確に書いてもらえばバランスがとれる。突然こういうものが出てくるからおかしい。そこを整理してもらったらいいと思います。

【委員】 他市との文化交流とあるが、現実やっているものをもっと発展させた方向の目標を出すのであればいい。先ほどの異文化交流というのは、外国人だけになしに、市内でも色々な文化があるから、現実には謡曲と他の芸事と交流で何かをすれば、それもひとつの異文化交流。交流の中でお互いに鑑賞し、見て研究するのもひとつの異文化交流であって、外国人にこだわることはない。

【委員】 それをどう表現していくか。

【委員】 海外というのを分けたらどうでしょう。市民が行き来して、高砂に入ってきてもらい、外に出ていくという人の流れを作っていくわけだから、海外の方に対してのことは別枠にする。

【委員】 テレビでよくやっている日本人が現地の人と生活し、体験することで、人間同士のつながりができていく。それは異文化交流だと思う。そうした中で市内に住んでいる外国人との交流はあるということで、それをもっと発展させるのであれば、交流して家族同士集まり、食事しながら、自分の国ではこういうことがあると自分の持ち分を披露することで、そういうようなことをしても異文化交流だと思います。企画するのであれば、それをもう少し考えていく。

【委員】 言葉を整理する必要がありますね。

【議長】 施策の方向を国内、国外に分けるのは難しい。具体的なところを整理すれば分かります。委員が言われた市内の中のような文化団体の交流は1つ上の【施策の方向1】で「文化団体のコラボレーション」で書いてあるので、そういったところで発揮されると思います。

【委員】 過去にニュージーランドで日本まつりがあって、結構外国とも交流していました。夜は向こうの人と第九を練習して、最終日に向こうの楽団と一緒に第九を歌って帰ってきました。

【議長】 ラトローブ市以外も交流はあるということをお教えいただいたので、ここはもう少し整理をしていきます。他に何かお気づきの点はあればお願いいたします。

【委員】 具体的な施策例ですが、具体的ではないようなこともあり、抽象的なものもある。担い手にもつながりますが、担い手をここに実際載せる必要があるのだろうか？ここに具体的にコラボレーション促進としてやっているのであれば、ここに企業名を書く方がより分かりやすく、そのほうが具体的である。担い手というところで、基本施策4の【施策の方向性2】の3番の「外国語を学ぶ教室、講座の開催」は、企業のほうがよくやっているのではないかということでしたが、考えてみると担い手というのはすべてが入ってもいいと思うので、今現在入ってないかもしれないけども、そうすると書く必要性が本当にあるのかどうか。

【議長】 表に担い手は書かなくてもいいのではないかということですね。

【委員】 担い手はみんなが担い手になっていればいいと思うのですね。行政だけのものもあるが、他の言葉も入ったりすると思うので、具体的な施策例というのであれば、具体的な現在の事業名を入れたほうが分かりやすい。

【議長】 第5章に担い手が書いてあるので、それを受けて第6章で担い手を書いてあり、あえてそれをまた書く必要があるのか。第5章で定義してあるから分かるだろうということですね。

【委員】 私も第5章で担い手と書いてあるから、第6章でも欲しいのかなとは思いますが、考えてみたらすべて入ってくるので。

【委員】 これは事務局が事務的に几帳面に書いてあるわけです。

【議長】 ご提案は、もう無くした方がいいということですね。

【委員】 入れておいてもいいが、具体例と施策がどうも言葉がひっかかる。具体的ではないが、具体例と書いてある。

【委員】 「歴史的資料の収集、保存、整理」は行政だけとなっているが、そうではない。かつて日笠山の資料を収集されていた人がいました。市民が収集していることもある。ここに行政と書いてあるのはおかしい。

【議長】 委員のご提案ですが、事業名を書くのは難しいと思います。具体的ではないのですがあえて例えば施策例とかにさせていただいて。確かに全部見ていけば本当に行政だけなのか、企業も入っているのではないか。書かれていないところが何もしないと困るのではないかと委員からも以前ご意見がありました。そもそも条例にはこれらの団体が協働で取り組むということが前提だからあえて外してもいいのではないのでしょうか？いかがですか？

【委員】 知っている者が見たら漏れているものが出てくるから外したほうがいい。

【議長】 担い手の部分は外して、それと具体的なものは外して「施策例」とさせていただきます。担い手は条例であくまでも協働とうたっていますので、いちいち書かなくてもよい気がしますので、ありがとうございました。

【委員】 18ページの基本施策4【施策の方向1】の〈具体的な施策例〉のところに「高砂の核となるイベントの開催」が4番目にあがっていますが、核となるということは中心になるということですよ。イベントの実施の中にも何も説明がない。19ページの【施策の方向1】の中の2番にもあり、両方に核と入っています。この説明が何もなく、高砂は何を核として持ってくるのか、みんなは何を核として考えているのか。

【議長】 事務局から何を核として想定しているのかお聴きしたいと思います。

【事務局】 何を核とするかは色々考えられると思うのですが、例えば高砂万灯祭です。万灯祭などがいろんなところに広がりつつあるので、こういったイベントが高砂の核となるイベントになると思います。今後謡曲「高砂」をシンボルとしてということなので、そういったものを高砂の核として、シンボルとして活かしていけるのではないかと思います、こういう表現をさせていただきました。

【議長】 現在中心に行われているイベントと、今後基本方針に沿って考えられるイベントを核と考えているということですね。

【委員】 そういう意味合いを入れていかないと、新しくできたものがまた核となるということではないと思います。核というものは中心をなすものですから、それから導きだされる周辺のものということだと思いの。

【議長】 【施策の方向1】の説明をもう少し詳しく書くということで、特に「竜山石などの文化遺産やゆかりの人物など、高砂をモチーフとしたイベント」だけではないですね。これだと核となるではないはずだというのがご意見だと思います。上の文章を書き直すということによろしいですか。

【委員】 はい。

【議長】 委員の質問は、核となるイベントは何ぞや？ということで、事務局は万灯祭や今後この方針で取り組む謡曲「高砂」のイベントを想定しているが、そこが書かれていないので、そこをしっかりと書いたらよいのではという意見でした。

【委員】 ブライダル高砂や緑の祭典など核的なイメージがあります。

【議長】 既存で比較的大規模で知名度の高いものが1つあげられました。それとこの方針であがっている謡曲「高砂」のようなものが1つ核になるのではないか。

【委員】 以前謡曲「高砂」はこの土地のものであるということが高砂の人は知らない、新高砂音頭を作っても起用されていないという発言があった。そういうことはない。夏祭りでは各地域で新高砂音頭を踊っています。謡曲「高砂」もみんなそれぞれできるだけ出ています。確かブライダル宣言をしたときにJCで世界中の結婚式というものを企画しました。片方を文化会館でし、片方は福祉保健センターで。人集めに婦人会でしました。そういうことがあるにもかかわらず、この前からまるで高砂には文化がないというような発言でした。それをいちいち私が言っていたらみんなの発言を止めることになるので、辛抱しました。最後にこれはきっちり書いてもらわないといけないということで、事務局に書いてもらいました。この文章は以前に作られているからこういった形になっています。私もそのときに説明をすればよかったです。高砂には謡曲「高砂」を中心としたそれこそブライダルの文化があり、それを売り出していました。ここの核となるイベントの開催もあなたがおっしゃるように、書き方がきっちり書かれていないから何のことかわからない。だからこういうところはおさえて書いてほしいというあなたの意見はよく分かる。

【議長】 先ほどご提案させていただいたのは、【施策の方向1】の説明が不十分だと思うので、事務局から先ほど返答があったように、謡曲「高砂」であるとか過去にやってきた比較的影響力があつたイベントを核となるイベントとするのが事務局の提案だったので、そのあたりを説明の中に付け加えさせていただくということで、よろしいでしょうか。

【委員】 それでいいと思います。

【委員】 ブライダル高砂が核なのかなというイメージがあったのですが、事務局の説明の中では、これから始まるものも核になる可能性もあるということで、それでは今までの核は何かなということになる。それは新たな魅力のあるイベントにも重なってきますし。

【委員】 核は核なので、置いておきながら書き方を変えないといけない。

【委員】 原点は原点であり、歴史を捨てるわけにはいかない。それを土台にして上に積んでいかないといけない。せっかくいい歴史があるのだから。核となるイベントの開催というのは、何のことか分からないからもっときっちり説明をしなければならぬ。

【議長】 そこは説明するというので。他に何かありますか？

【委員】 〈具体的な施策例〉の表を見直すという話が出ていましたが、【施策の方向1】の4の「高砂の核となるイベントの開催」のところの担い手の欄に、例えば万灯祭や秋祭りなどを書いたらどうですか？

【議長】 例をここに書いたらどうかということですね。表の作り方は考えますが、担い手の部分がなくなれば、もう少し表を有効に使えるからその辺りをもう少し分かりやすく書くこととします。行政の悪いところで1箇所作ると全部それを求めないといけなくなるので、そのあたりは自由度を事務局に与えたいので、担い手の部分がなくなると表に少し余裕ができますので、委員が指摘されたように、もう少し分かりやすくするようにお約束させていただきます。

【委員】 1番の「高砂ゆかりの人物の記念事業の開催」を1番でなく、最後にもつてくるべき。

【委員】 この番号は事業の大きさとかそういうわけではないですね？

【議長】 そういうわけではないです。時々あるのは再掲のものを上に書いています。

【委員】 順番はきちんと書くべきです。

【委員】 担い手というところ、私が発言して第6章から削除することになったので

すけど、そうなると第5章に「担い手とその役割」と書かれているので第6章のところに出てきていたと思うので、抜いた理由を文章で書いて足さないと、答申のときには無いわけですから、こういう施策例にはみんながかかわっているということを、担い手の役割もあるけども、それぞれが実現するために向かっているというような文章を入れてないと、担い手を入れている意味がなくなる。

【委員】 第6章の「文化を担う人材の育成、活用」というところに全部入っているから、これだけでいいと思いますよ。

【議長】 文化振興条例の前文の最後に、「ここに、私たちのまちの文化を次世代に引き継ぐとともに、新たなまちの活力を生み出すため、行政と市民、団体等が協働して」と書いていますので、まさに本来協働で行うのだということを明記しておけば、ご懸念のところは解消されると思う。それは第5章のところに書いて、団体、市民が条例の精神に基づいて協働して第6章以降の基本施策を担っていきますということを、第5章の最後に書けばご懸念はなくなるだろう。

【委員】 市民、団体、行政が全部かいてあるからこれでいい。

【議長】 これが第6章に活かしているということを明記すればよろしいと思います。あと何かお気づきの点あればどうぞ。

【委員】 7ページの文化を取り巻く課題の中の2番目に「教育の場での文化に触れる機会が減少している。」と書いてありますが、文化というのは学問の知識と並行していかなければならないと私は思う。文化だけをしなさいというだけではない。上の言葉に学問と文化が並行しながらいかないといけない、それが課題であるということが欲しいのですが、どうでしょうか。

【議長】 アンケートの結果からこれが出ているので、独自の解釈がどこまで入れることができるかということがあがるが、アンケートの結果を踏まえて課題を抽出する中で、先ほどおっしゃった部分は含むことができると思う。事務局に聞きますが7ページのここはアンケート結果そのままですか？

【事務局】 はい。

【議長】 だとするとそこを変えるのは難しい。教育は学問と文化はどういう関係で書いたらいいでしょうか？

【委員】 教育は元来は今までの知識を子ども達に伝達をするのが以前は目的でした。しかしそれだけではなく、子どもの意欲的なもの、主体的なものを導いていくというふうに段々今なっている。基礎的な知識、地域の文化や生活様式、そういったものがないことには独創的なものが生まれないとはいいます。今はそういうことを言いながら学力だけのことを言っています。

【委員】 これはアンケートの結果だから変えることはできない。

【委員】 課題と書いてあるから、ゆくゆくはそういう方向性で進めていくということが書いてあればと思いました。

【議長】 今は学問だけではダメで、全人教育的なところを考えなければいけない、文化が大事なのだということを、ここは変えられないから、例えばどこかの中に書いていくのもひとつの方法かと思います。例えば文化を担う人材の活用に入れられるかもしれません。

【委員】 アンケートは変えられないから、最後にこれに対して行政、市民等が今後どういうふうにしたらいいかを書いていけばよい。

【議長】 第6章に付け加えられると思います。他はいかがですか？

【委員】 2の文化を取り巻く課題のところですが、一番下の2行を3つ一緒に書いたらよいのではないですか。

【議長】 並べ方を考えていきます。2番とこれが離れているから、これは共通だろうということです。

【委員】 これはアンケートだから、答えだから。順番は変えたらいい。

【委員】 順番を変えた方が読んでいる方は分かりやすい。

【議長】 順番を変えた方が明確にどこが課題かわかりやすい。事務局とこの点については考えます。

(2) パブリックコメントについて

【議長】 もう1つの議題ですが、パブリックコメントについてです。いただいた意

見が何件あって、どういう内容であったかを事務局からご説明いただきます。

【事務局】 (資料2)をご覧ください。6月6日から7月6日まで文化振興基本方針の素案について市民から意見公募をいたしました。資料3ページにあります意見提出数の表のとおり3人の方から14件の意見をいただきました。その意見の概要と審議会の考え方を事務局案としてお示ししています。なお今回いただいた意見によって基本方針の内容や文言を変更した箇所はございません。

【議長】 このパブリックコメントは、審議会としての考え方をお返しするということが前提でとられているわけです。ここに出されているのは、このような返事でいいかということだと思います。本来パブリックコメントは出てきた意見を先ほど方針案としては盛り込んでいないということでしたが、委員のみなさんに見ていただいて、方針案に盛り込んだほうがいいのかとか、この部分は方針とかかわるから単に返答するだけではなく、こういうような変更をしましたというように返答したほうがいいのかということもあり得るので、その辺りを注目してもらいながら見ていただければと思います。事務局としては方針にかかわるものはなかったという判断ですが、委員のみなさんはどうかということです。

【事務局】 先ほどの委員のご意見の中で、13番の担い手については変わりましたので、そこは変更します。

【委員】 あえて言うほどの意見はないです。

【議長】 12番はかなりおもしろい意見だと思います。

【委員】 古いものを大事にしながら、そこに新しいものをどう加えるか。いろんなことに挑戦したらいいと思う。もっと若い人たちがこんなこともできる、この歌詞を使ってこんな曲を作ったとか、ロックがあってもいいし、高砂ジャズがあってもいいから、そのくらいの市民のパワーがほしい。誰かが作るのを待っているのではなく、若い人たちがもっと作ればいい。それこそ歌詞があるわけで、作品を作り、それこそコンクールにしたらいい。

【委員】 かつて謡曲「高砂」をアピールしなければいけないということで、「組曲高砂」を作ってもらい、冒頭の小謡を謡ったりしました。成人式の前にも謡ったりしました。

【委員】 いろんな形で謡曲「高砂」を利用すればいいと思います。本来こういうものがあるというところと、頭をやわらかくしていろいろできるというところ。

【議長】 お返しする内容として、何か質問や意見があればお願いします。

【委員】 4番の「観光マップ、ガイドさん付きで、じょうとんバス月1回予約を受けて回れば、皆の行けない所、知らない事、文化を知ることになる。」とありますが、今じょうとんバスは3台のバスが4系統走っていて、全然余裕がない。これをしようと思うと、バスをもう1台チャーターしなければいけないから、予算的に無理があるのでは？

【議長】 どうでしょうか。お答えとしたら、そういった懸念があるということですが、この中だと検討と書いてありますが、現実的に難しいということで、財政的に無理なら無理と書いたほうがいいかもしれませんね。どうでしょうか。

【委員】 これは審議会の考え方ですね？審議会の考え方を書いているのであれば、審議会として「検討されるものと考えます」と書いてあるから、これでいい。

【委員】 じょうとんバスとは別に、観光協会が観光バスを借りてそういうことを計画しているようですから、じょうとんバスではなく、別のバスで実施が可能でないか。

【議長】 基本はこの4番の回答にして、観光協会等でも別途観光バスを計画中との情報もありますとか、そういう形で少し前向きなご意見を入れておくと。何か他にないですか。特にご意見がなければ、これで審議会の案としてお返しする。ただし13番については、担い手というのが今回はなくなったので、具体的な施策例については、施策の一例であるということと、第5章に書かれている担い手が協働して実現していくことが、条例の精神として望ましいということでこのような文章でお返ししたい。何かよろしいでしょうか。パブリックコメントにつきましては、以上です。

4. その他

今後のスケジュールについて

【議長】 今日いろんなご意見を頂きました。修正できるところは今から修正します。施策例の順番をどうするかなど大きな問題が残っています。次回をどうするか事務局から説明をお願いします。

【事務局】 次回第6回の審議会を8月30日木曜日を予定しております。(資料3)のスケジュール案をご覧ください。

【議長】 ご相談というのは、先ほど修正箇所が出て、施策例の順番をどうするのかというのが大事で、これが表に出たときにどのようなインパクトがあるかを考えると確におっしゃるとおりだなと思いました。これを修正したあとにみなさんに一度これをかけないと難しいかなと。当初は今日これで合意を得られたら第6回目をやめようかと考えていましたが、いくつか文面も変えましたし、担い手のところをはずすと見た目も変わりますし、その場合だともう少し丁寧な説明があるだろうということで、書き換えが思ったより多い。第6回開催させていただきたいのですが、いかがでしょうか？

【委員】 開催していただいて、事前にみなさまに送っていただき、それから集まればいいのではないですか。

【議長】 第6回をそれでは開催します。

【事務局】 場所は南庁舎2階の会議室2、時間は3時からです。

【議長】 市長から諮問を受けて私たちが答申を出すということになります。最終回は市長答申ということで、みなさまにお諮りします。市長に対して答申を出すセレモニーですが、市長の都合が分かりませんが、集まっていたきたい。今日ご発言いただいていない方で何かありましたらお願いします。

【委員】 市内の芸能文化の根幹という話の中で、謡曲「高砂」はその1つでないかということがでましたので、謡曲「高砂」がどうして根幹なのかを市民に知らしめるために、最低でも中学生くらいの方に体験させるということを具体的に進めていただきたい。その中学生たちが自分たちのまちには昔からこういう伝統文化で、結婚式で謡う謡があるのだというようなことを、どこか外へ行った先で発表できるような体験をさせるものを作っていくのが大きな課題だと思います。市の方で具体的にどのように進めるか。学校教育の一環として、高砂市の伝統文化のひとつとして、教育の一環だという捉え方をして、以前も提案しましたが、有料の観月能を無料で体験させるとかそういう企画をしていただければ少しでも市内の若い人たちに広がるのではないかと。そういうことを進めていただきたい。

【委員】 もう何年も前ですが、県の方が芸能文化の普及ということで歌舞伎の勉強

会をするために各地域をまわりました。中学生に1年に1度でも謡曲を鑑賞する会を授業の中に入れていただいで、高砂でしかできないことをしていただいたらいいのではないかと思います。しかし、今難しいですね。

【委員】 試験の終わったあとを利用するとかでない、普段のときに行うのは難しい。中学校の音楽の授業はいま週2時間くらいしかない。そこで今は伝統芸能をしなければならないから三味線とか琴をやっています。そこへもってきて1回や2回聞いて謡えるものではないし。反対ではないですけど、私の友達が実はやっています、中学校へも行ってきます。小学生は謡ってくれたけど、中学生は謡ってくれなかったということをしていました。実際の運用は難しいですね。

【委員】 人形浄瑠璃の体験のことを新聞、テレビでやっていました。人形の扱いなど体験させていました。

【議長】 委員が指摘されたような懸念事項、つまり学校における文化の担い手育成の部分と共通する部分でした。どういう形で組み込めばよいか。具体的には教育委員会の方で。正直全中学校で行うのは無理で、例えばパイロット的にやってみるといって最初に行うとか、工夫していかないといけないと思いますね。

【委員】 1つの方策ですけど、阿弥陀地区のトライアルウィークはお茶やお花を婦人会が受け持ってやっています。そういう形ですのも1つです。

【委員】 国とかの芸術鑑賞会に能というのはないのですか？

【委員】 こちらから申請してですね。

【委員】 いま中学生たちは芸術文化センターに音楽を聴きに行っていますよね？

【委員】 1年生が行っています。

【委員】 そういう能に接する機会とか、歩き方から体験するとか。豪華な衣装とかを中学生が観たら喜ぶだろうし、すごいインパクトもあると思うのですね。その中の高砂なのですけども。

【委員】 費用がかかるのが問題なのです。また、企画をしても人集めというのがなかなか難しい。

【委員】 高砂学を月1回中央公民館で行っていますが、そのとき謡曲「高砂」を謡っています。

【委員】 謡曲は講師がいないということでしたら神戸の先生が行ってあげると言ってくれているので、もっと高砂の公民館全部でしてほしいです。昔は公民館活動は謡曲「高砂」から始まっていました。

【委員】 私も出て、石の宝殿の石切唄を謡いました。

【議長】 何か意見はありますか？

【委員】 今も石切唄の話がでましたが、竜山石は古代からの産業であったと書かれています。少ししか語られていない。それを普及させるには、いま産業自体が変わり、石に代わるということで、いろんな産業が発達して、その影響を受けて採石産業が細々となった。それだけに高砂が石を語る場が少なくなった。石の持つ力というのは、コンクリートの数倍あると思います。ところが産業が変わってきて、石に代わるものとなってきた。それだけにこの冊子を見てもさみしく思う。普及啓発に石をもう少し力を入れたい。幸いに加古川東高校のクラブが石を部活として研究しており、新聞にも掲載されていました。遠くの人が竜山石を研究している事例がありますから、そういうものも大事にしながら、高砂にいて高砂で古代から栄えた石を知るべきだと思う。そうすれば産業として持続はできないとしても、こういうすばらしいものがあちらこちらにある。この前書きにもありますように非常にすばらしい力をもった竜山石が高砂として誇れるものにしていきたいという思いがある。具体的にどうしたらいいとは浮かばないが、もっと高砂市民が竜山石に誇りを持てるような担い手、後世に伝えていくべきだと思います。

【委員】 竜山石はブロックに代わってしまい、需要がないから石工もいなくなり、石工がいなくなれば需要があっても今度は仕事ができない。いま高砂のまちなかに竜山石を使って名所の標識を作ろうということをやまちづくり部が行っています。今までに3本ほどできています。今年は10基増やすということで、竜山石を使って細々とですが、まちなかに竜山石を増やしていくことが進んでいます。

【委員】 昔は家から竜山にあがっているのが見えました。秋になれば紅葉して素晴らしいと思っていました。しかしだんだん削られていくし、竜山石がなくなるからそのままにして欲しいなと逆に思う。産業としても分かるが、私としては高砂市として竜山はそのままいつまでもあってほしいという気持ちが半分あ

ります。

【議長】 竜山石については、産業利用しか書いていなくて、一部文化の資源として竜山石のことも書いてある。先ほどの石切唄などかかわるところも載せるなど考えていかなければならない。

【委員】 大和の石棺物は80%がここの竜山石を利用しているというのは有名な話です。

【委員】 文化の歴史の伝承ということで書いてもいい。

【委員】 竜山の真ん中くらいに10メートル以上の池があります。一番高いところに古墳があり、そこを発掘したら塩が残っていました。

【委員】 それを研究されたのは高砂の方で、ともしびの賞を受賞されていました。

【議長】 時間もまいりました。面白いエピソードありがとうございました。竜山石の扱い方にはもう少し考えていきたいと思います。

【委員】 「帆をあげて」の帆は高砂織りですか？高砂染めですか？船に使っていた帆で何かされていると。カバンを作られていると聞いたのですが。

【委員】 帆布でカバンを作っています。

【委員】 松右衛門帆の帆と、この「高砂や」の帆とは時代が違う。

【委員】 万灯祭のときにできるだけ石屋さんに呼びかけて置いてもらうことをやってもいいのに。

【議長】 お時間になりましたので、事務局にお返しします。

【事務局】 教育委員会との連携も大事だと思っております。文化振興審議会で審議していただいた基本方針の現状と経過報告を教育委員会へさせていただきたいと思っております。今後のスケジュールは以前お知らせしたとおりです。今回出た意見をまとめ、みなさまにお送りしたいと思います。

【議長】 よろしく申し上げます。本日はどうもありがとうございました。

5. 閉 会

【司会】 これにて散会いたします。ありがとうございました。